

尾州の知と技 「FDC匠ネットワーク」メンバー紹介



## FDC匠ネットワークメンバーに聞く

質問します

質問1：職歴は？ 質問2：主に携わった業務は？ 質問3：尾州産地の現状認識は？

質問4：貴方が伝承しているもの（こと）は？ 質問5：その伝承に必要なもの（こと）は？



### 複合素材のテクニク

紳士織物企画の匠・渥美充和さん（所属・アツミテキスタイル工房）

質問1：1958年 郡上紡績入社  
1967年 岩仲毛織婦人服地部企画室（～91年10月）  
1992年 アツミテキスタイル工房設立

質問2：婦人服地の織物設計。70年以降は素材開発。

：工房設立後は、メーカー契約で素材開発及び企画者の指導育成。

：大手コンバーターの社員教育講師。

質問3：開発に資金を投入しない傾向にある。その理由は リプロ競争、価格競争などで、コンバーターに振り回されているためだ。そのため各社の個性が希薄になっている。尾州産地は開発力、商品力のある“企業集団”になる知恵が欲しい。

質問4：複合織物の作り方。（各種素材の物性、特徴を脳裏に叩き込む）

：織物設計におけるスピード性、正確度の高い分析テクニク。

質問5：育成にかける企業の投資力、企画者のやる気。



### 染色まで含めた撚糸加工

撚糸の匠・富坂浩三さん（所属・豊田撚糸）

質問1：1965年 鐘紡大垣工場では毛織物規格、商品開発（～90年）  
1991年 鐘紡本部に糸商品開発、販売促進（～2000年）  
2001年 豊田撚糸、開発営業（現在に至る）

質問2：鐘紡大垣では梳毛、紡毛、T・Wの紳士、婦人物の企画、開発

鐘紡本部では新規紡績糸とフィラメント交撚糸物の開発、販売促進

質問3：パイの減少に伴い産地の弱体化、人材の不足などが一層進展し、開発力と体力のない企業は振り落とされる。生き残るには優れた企画提案力とクイックな生産対応がポイント。

質問4：主として定番糸（短紡、長紡、フィラメント）や特殊フィラメントを活用した、染色までを含めた撚糸加工での新規素材の開発。

質問5：オールマイティな人材の育成 原料から製品までの縦の関係強化。